

令和6年 第7回飯舘村議会定例会

令和6年12月議会定例会は、12月6日から12月13日までの日程で開かれました。一般質問は12月10日・11日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。

議案審議は13日に行われ、提出された議案はすべて原案どおり可決されました。



今議会で可決された議案など

- 令和6年度
飯舘村一般会計補正予算
- 令和6年度飯舘村国民健康保険特別会計補正予算
- 令和6年度飯舘村介護保険特別会計補正予算
- 令和6年度飯舘村簡易水道事業会計補正予算
- 令和6年度飯舘村農業集落排水事業会計補正予算
- 飯舘村道路、水路等の法定外公共物の管理に関する条例
- 飯舘村水道条例の一部を改正する条例
- 農業水利施設等保全再生事業
営農再開支援水利施設等保全事業（飯舘西部その1）ため池
放射性物質対策及び補修工事（百目木ため池）請負契約の変更について

農業水利施設等保全再生事業
営農再開支援水利施設等保全事業（飯舘西部その1）ため池
放射性物質対策及び補修工事（田尻ため池）請負契約の変更について

令和6年度飯舘村一般会計補正予算（第6号）の専決処分の承認について

村長等の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

飯舘村職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例

商業施設売場・倉庫用冷蔵冷凍機器取得の物品購入契約の変更について

人権擁護委員候補者の推薦について

村長村政報告

紙面の都合上、一部省略しています。

帰還困難区域の対応

11月8日、村は「原発事故による帰還困難区域を抱える町村の協議会」に改めて加入しました。今後は、他の5町村と協議を重ね、要望活動など復興の加速化に向けた活動につなげていきます。

第7次総合振興計画の策定

令和8年度からの10年間を計画期間とする「飯舘村第7次総合振興計画」の策定作業を開始しています。

10月8日の第1回計画審議会にて、委員15名に委嘱状を交付し、委員長には、福島大学行政政策学類の鈴木典夫教授が選任されました。また、翌9日の第1回計画策定委員会にて、民間公募による委員を含め10名の委員に委嘱状を交付しました。

さらに、4つの部会を設置し、計画策定の議論を進めていくことを決定しました。10月19日には、第1回専門部会を4つの部会合

同で開催し、ワークショップで現状の課題等の整理に取り組みました。

移住定住対策について

空き家・空き地バンク登録推進の取り組みとして、毎月「空き家・空き地バンクサポーター意見交換会」を開催し、情報を収集・共有し、バンクへの登録増加、住宅不足の解消に努めています。また引き続き、飯舘村のPRや移住希望者の相談対応など、移住定住者の増加に向けて取り組んでいきます。

「きこり」「きらり」利用状況

4月から10月末までの「きこり」の全体利用客数は9171人で、このうち宿泊利用者は935人です。また、7月1日にオープンした「きらり」については、農業体験や農業研修を目的とした施設利用者7団体116人、宿泊利用者が144人です。

あいの沢キャンプ場

4月から10月末までに2230人の利用がありました。要望が寄せられていたWi-Fi通信環境は、10月末に整備工事が完了し、

稼働しています。また、この冬は試行的に12月下旬まで営業を延長しました。今後も村の観光・交流の拠点として広くPRし、交流人口の拡大を図っていきます。

道の駅までい館

4月から10月末までのレジ客数は、までい館が9万4403人、セブンイレブンが14万5864人です。

ふかや風の子広場

本年4月から10月末までに4249人のご利用をいただいております。週末には多くの家族連れで賑わっています。ドックラン「わこの庭のびのび」も大変ご好評をいただいております。村内外の多くのお客様に楽しんでいただいています。

マイナンバーカード

本村における10月末現在のカード交付率は80.9%です。12月2日より、「マイナ保険証」を基本とする仕組みへ移行しましたが、村民が不安なく医療機関を受診できるよう制度の周知を図り、活用促進に向けた取り組みを進めていきます。

村民の帰還状況

11月1日現在の帰還者は627世帯、1186人で、帰還率は約26%です。これに、転入者279人と「いたてホーム」の入所者等を合わせた村内居住者は、804世帯1524人です。

避難を継続している方については、県外に144人、県内は福島市に1894人、南相馬市に268人、伊達市に232人、川俣町に215人、相馬市に116人など、合わせて2869人です。

「あぶくまもち」について

あぶくまもち生産組合の協力のもと、8.4haのほ場での栽培及び種子生産に取り組み、種子用種もみ約1.5t、食用米約34tを収穫しました。このうち、食用分のほとんどについては、今年も株式会社セブンイレブン・ジャパンの協力のもと、おむすびに加工され、村内ほか県内の店舗で販売される予定です。

また今年初めて、あぶくまもちを加工した「切餅」が同社の冬のギフト商品として、全国で販売されており、11月28日に福島

県知事を訪問し、その旨を報告しました。今後も村の特産品として栽培面積拡大、消費拡大、販売促進を進めていきます。

建設課関係

村道舗装機能回復工事については、今年度、15路線、延長4.4kmの工事を進めており、今月末にはすべて完了の見込みです。

また、普通河川については、今年度、延長約18.4kmの除草を実施しました。村道の除雪については、業者委託による除雪のほか、今年度は5地区での行政区委託による除雪を行う体制を整え、対応してまいります。

教育関係

学校及びこども園では、2学期中の教育・保育活動についても、地域の方々に協力をいただきながら、予定されたカリキュラム・行事に取り組むことができています。

いたて希望の里学園では、10月26日に、いたてつ子発表会「赤蜻祭」が開催され、学年ごとに学習の成果が十二分に発表されました。